

読者の  
実践  
ダイジェスト

# 修学旅行を題材にして 表現活動への自信を育む

実践者・榎井一宏 (大阪府立西浦支援学校教諭)

まとめと補記・笹森洋樹 (国立特別支援教育総合研究所)

知的障害特別支援学校中学部において、表現するためのツールの使い方の指導と、自分の力で困難を乗り越える経験ができる場の設定をしたことで、表現活動に苦手さのあった生徒たちの発表することへの自信と積極性を育んだ実践を紹介する。

本校の中学部では、自立活動の時間を週1コマ(50分)設定し、学年ごとに障害の程度や発達段階に応じて四つの課題別グループを構成している。

本実践の対象である中学部3年生8名の生徒たちは、一番軽度のグループに属し、発語によるコミュニケーションが成立し、指示理解もできる。一方で、認知の偏りやこれまでの生育歴、

学習経験などから、自信がもてず、授業に臨めなかつたり、作文や発表などの表現活動に苦手意識があつたりといった課題もある。

自信のなさから気後れしてしまふことが多いが、学習意欲や表現欲求がないわけではない。また、新しい環境も苦手で、学校行事などでは消極的になりやすい傾向もあつた。

## 修学旅行をきっかけに 生徒の苦手さを支援

### ●課題設定

本校中学部では例年10月中旬に修学旅行へ行く。前述のような特性のある生徒たちにとって、いつもと違う環境で未経験の活動を行う「修学旅行」は、見通しがもちににくく、大きな不安を感じる行事でもある。筆者は、この修学旅行を子どもたちにとってより充実した活動の場にするためには、「見通し」をもつことと「振り返り」を行うことが重要であると考えた。まず、見通しをもつための事

前学習として、自分たちで修学旅行の行程を確認し、必要な情報(移動手段、食事、施設概要など)を収集し、スライドにまとめる活動を設定した。そうすることで、生徒たちが主体的に学習し、自分たちの力で修学旅行への不安を乗り越える経験ができるのではないかと考えた。

事後学習では、「書くこと」に対する抵抗感を減らし、「振り返り」活動に集中できるように、作成したスライドをもとに振り返りを行う時間を設定することにした。

また、作成したスライドを用いて学年集会でプレゼンテーション(以下プレゼン)を行う活動を設定することで、生徒たちの「コミュニケーション能力」を育成したいと考えた。

### ●事前準備

本単元は、修学旅行直前の9月上旬から〈表〉の流れで実施した。1学期にはその前段階として、スライドを作成する操作に慣れ、「作ることができた」

次	時	テーマ	ねらい	活動
1次 事前学習	1時	事前学習のスライドを作ろう①	・事前学習の目的を知り、活動の見通しをもつことができる。 ・keynoteの操作を思い出し作成できる。	・プレゼンテーション動画を見てイメージをもつ。 ・作成したスライドの条件を知る。 ・チーム分けを行う。 ・実際に作成してみる。
	2時	事前学習のスライドを作ろう②	・目的、条件に応じたスライドを作成することができる。 ・仲間と協力してスライドを作成することができる。	・前時に引き続きスライドを作成する。
	3時	発表のリハーサル	・発表に適した声量を知り、実践できる。 ・必要に応じてスライドを修正できる。 ・修学旅行に見通しをもつことができる。	・プレゼンテーションに適した声量を学ぶ。 ・実際にプレゼンテーションを行い、スライドの修正を行う。
	4時	学年集会で発表しよう	・学年の前でプレゼンテーションを行うことができる。	・学年集会でプレゼンテーションを行う。
2次 事後学習	1時	修学旅行振り返り①	・修学旅行の思い出を振り返り、スライドショー形式でまとめることができる。	・修学旅行の思い出を振り返る。 ・事前学習で作ったスライドに思い出に残ったことを写真と言葉でつけ加える。
	2時	修学旅行振り返り②	・スライド作成をとおして、自分の体験や思いを言語化する。	・前時に引き続き、思い出を写真と言葉でスライドにまとめる。

〈表1〉 単元計画

経験を積むことができるように、iPadのプレゼンテーションアプリ『Keynote』を使って、自分の好きな物や、夏休みの思い出を写真と1文でまとめる「一言写真日記」を作成した。

●第1次1時

まず、約3週間後の学年集会で、修学旅行の行程を生徒だけで

でプレゼンすることを伝えた。「学年集会で発表」という場面設定に、生徒たちは多少不安を感じたようであった。そこで、プレゼンの例として、スティープ・ジョブズ氏のプレゼン動画の一部を見せ、自分たちが行うことをイメージするところから始めた。その後、修学

旅行のそれぞれの日ごとに担当を決め、チームに分かれてスライド作成に取りかかった。

作業が始まると、どのチームも早速スライドの役割分担や必要な画像について話し合う姿が見られた。「漢字わからん子もいるから、ふりがながいるんちゃう？」という聞き手を想定したうえでの作成を考えた発言もあり、「伝える」ことを意識して取り組んでいることが伝わってきた。

●第1次2時

前時に引き続き、スライドの作成を行った。どのチームもスムーズに進み、画像や言葉、エフェクト選びを相談しながら決めることができていた。操作上わからないことは積極的に教師に質問する姿も多く、教師が一方的に教えるのではなく、自分たちで考え、わからなければ質問するよう促した。

全チームがこの時間中に8枚程度のスライドを完成させることができた。

●第1次3時

発表に向けてリハーサルを行った。その際、『DB Decidal Meter』という声の大きさを測定できるアプリを使用し、聞きやすい声の大きさを数値で確認した。自分の声の大きさをリアルタイムで確認しながらリハーサルを行うことで、自分の声量をイメージしやすかったようである。

また、声量を調整し、数値を合わせようとすることで一種のゲーム的要素も感じられたのか、これまで「発表」を苦手としていた生徒も堂々と楽しそうに発表のリハーサルを行うことができた。

●第1次4時

学年集会でプレゼンを行った。大勢の前での発表にみな緊張していたが、練習のかがいがあり自信をもって発表を行うことができた。これまで発表を避けていた生徒も、友だちから「練習したやん」と励まされ、発表を行うことができた。

しかし、リハーサルでは順調だったAさんが、本番の緊張感

に耐えられず、発表することができなかつた。Aさんがこれまで頑張ってきた成果を別の形で表現できないかを考え、後日開催される本校文化祭（以下、西フェス）で展示することにした。

### ●第2次1時・2時

修学旅行を終え、事前学習で作成したスライドに各自が感想を追加して振り返りを行った。事後学習では個人の体験を振り返り、自身の気持ちを言語化するという点に重点を置いた。

感想の記入は、好きなキャラクターの吹き出しに自分の感想を書き込み、代弁させるというやり方を用いた。自分の思いを表現することに苦手さのある生徒も多いため、好きなキャラクターというクッションを挟むことで気持ちを表現しやすくなったようである。

これまで「感想」を表現する課題を避けがちだった生徒も、西フェスで展示することを伝えると、「気合い入れて作らなアカンな」といった前向きな発言

をし、意欲的に課題に取り組んでいた。完成した作品はグループ全員で鑑賞し合い、それぞれの体験や思いを共有した。

### ●西フェス

完成作品を展示した。展示を見て足を止めてくださる方もおり、多くの人の興味を惹きつけられたことに生徒たちも満足そうであった。Aさんも「ちゃんと展示してあったなあ」とうれしそうに話してくれたことが非常に印象的であった。

\*\*\*\*\*

今回の実践をとおして、生徒たちは、必要な情報を自ら収集し、スライドの形にまとめることで、見通しのもちにくい状況を乗り越えることができた。また、仲間と協力し合い、苦手を活動をやり遂げたことで、自信を得ることもできた。中学部卒業を控えた生徒に、ICTなどのツールを活用すれば、困難は自らの力で乗り越えることができるのだと実感してもらえたのではないかと考えている。

### 補記

特別支援学校（知的障害）で子どもの表現することへの自信を育んだ実践である。対象は作文や発表などの表現活動に苦手意識があり、自信のなさから新しい環境に気後れしてしまいがちな中学部の生徒である。修学旅行を題材に、「見通し」をもつことと「振り返り」を行うことを大切に、課題を設定している。修学旅行はいつもと違う環境であり、未経験の活動も多く、見通しがもちにくく不安を感じやすい行事である。実践では、プレゼンテーションソフトを使い、自分たちで行程を確認し、必要な情報を収集してスライドをまとめていく活動が紹介されている。自分たちで修学旅行を計画していくような主体的な取り組みを行うことにより、活動に見通しがもて、不安が軽減されていく。作成したスライドを学年集会で発表する経験、文化祭に自分たちの作品が展示され、大勢の人に認めてもらえる機会なども大きな自信につながっていく。プレゼンテーションアプリによる「一言写真日記」や、声の大きさを測定できるアプリなど、活動への動機づけや生徒の興味をうまく引き出す教材、好きなキャラクターの吹き出しで自分の感想を代弁させるなど、気持ちを表現しやすいうような工夫もしている。生徒の課題達成のために、修学旅行という大きな行事を活用し、事前学習から事後学習まで一連の流れが丁寧に計画されたよい実践である。

### 実践の投稿を募集中!

◎当ページへの掲載を希望される方は、下記の連絡先まで実践内容を文書でお送りいただくか、ホームページからご投稿ください。（書式は特にございませぬ。原稿はご返却いたしかねますので、ご了承ください。）

◎掲載をさせていただく場合には、後日ご連絡させていただきます。

◎学校に限らず、個人・団体などでの実践も募集させていただいております。皆様からの実践をお待ちしております。

●郵送先：〒141-8416  
東京都品川区西五反田2-11-8  
(株)学研教育みらい【実践障害児教育】実践投稿係  
●実践障害児教育サイト  
<http://gakken.jp/human-care/>